

富山県植物雑記 (4)

長井 幸雄

富山県立小杉高等学校 939-0341 富山県小杉町三ヶ 1520-1

Notes on the Flora of Toyama Prefecture (4)

Yukio Nagai Kosugi High School, 1520-1 Sanga, Kosugi-machi, Toyama, 939-0341 JAPAN

富山県下に生育する希少植物4種の新産地を報告する。

ケナシトウササクサ

Lophatherum sinense Rendle f. *leiophyllum*
T. Koyama

ケナシトウササクサは北陸を分布の東限とする暖地性のイネ科植物である。大田ほか (1983) は、富山県下より6産地を報告しているが、太田 (1994) はその産地の一つである呉羽丘陵においてその生育が確認できなかったとしている。筆者は、1995年9月15日に小杉町日の宮神社の標高10mのウラジロガシ林の林床にケナシトウササクサが生育しているのを確認した。本種は世界的な珍稀植物の一つであり、広葉樹の伐採などにより消滅することが危惧されている (長田, 1990)。県下の産地について再調査が望まれる。本産地の証拠標本は富山県科学文化センター (TOYA-標本番号 Sp37659) に収蔵されている。

ホクリクムヨウラン

Lecanorchis hokurikuensis Masamune

ホクリクムヨウランは、正宗 (1963) が富山県大岩不動産の標本に基づき、新種として発表したムヨウラン属の種である。ホクリクムヨウランの生育環境について正宗 (1963) は「富山県などの常緑広葉樹林の林床に稀に、一種のムヨウラン属のものの自生を見る。」と記述している。また、大田ほか (1983) も「低山の常緑広葉樹の老木下にごくまれに生育。」としている。さらに大田ほか (1983) は、ホクリクムヨウランの産地として上市

町大岩に加えて朝日町宮崎を挙げている。この両産地はいずれも常緑広葉樹林で、大岩はウラジロガシ林、宮崎はスダジイ林である。しかし、筆者は1996年6月30日に小矢部市猿ヶ馬場の標高250mのブナ林に隣接するコナラ林において、ホクリクムヨウランが生育しているのを確認した。この地は、標高からするとウラジロガシ林が分布する地域といえる (太田, 1983) が、ブナ林が成立していることで知られている。ホクリクムヨウランはブナとコナラのリッターで覆われた林床に生育していた。このことからこの種は、ブナ科の常緑広葉樹のみならず落葉広葉樹を含めたブナ科植物の林床という環境と結びついている生活している可能性が高いと推測される。本産地の証拠標本は富山県科学文化センター標本庫 (TOYA-標本番号 Sp53055) に収蔵されている。

キキョウ

Platycodon grandiflorum A. DC.

丘陵地や里山の開発により、キキョウの生育地が全国的に激減し、植物版レッドリスト (1997) ではキキョウは絶滅危惧II類 (VU) に指定された。筆者は1997年8月6日に小杉町綿打池の周辺の標高50mの2地点でキキョウがそれぞれ数株生育し、開花しているのを確認した。両地点のいずれもコナラ林の林縁であり、ヒサカキ、ネムノキ、コバノガマズミ、サルトリイバラ、オヤマボクチ、クズ、ゼンマイ、ワラビ、ススキなどと共存していた。富山県下のキキョウの産地は、大田ほか (1983) が6産地、長井 (1996) が1産地を報告しているが、これらの産地に現在もキキョウが生育

富山県で初めて見つかったコウロエンカワヒバリガイ

高山 茂樹¹⁾・宮本 望²⁾

¹⁾ 魚津水族館 937-0857 富山県魚津市三ヶ1, 390
²⁾ 富山貝類同好会 939-8084 富山県富山市西中野町1-8-31

The First Records of Brackish Water Shell, *Limnoperna fortunei kikuchii* from Toyama Prefecture

Shigeki Takayama・Uozu Aquarium, 1390 Sanga, Uozu-shi, Toyama, 937-0857 JAPAN
Nozomu Miyamoto・The Malacological Society of Toyama, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama, 939-8084 JAPAN

はじめに

1973年頃、兵庫県香炉園浜で生息しているのが発見された軟体動物二枚貝綱イガイ科のコウロエンカワヒバリガイ *Limnoperna fortunei kikuchi* Habe, 1981は、カワヒバリガイ *Limnoperna fortunei fortunei* (Dunker, 1856) の亜種として記

載された外来種である。

コウロエンカワヒバリガイの貝殻は薄く、後方に広い三角形を呈する。殻頂は前端より少し後方にある。殻の内面の後閉殻筋痕と後足糸牽引筋痕が癒合する。殻色は赤みがかった黒褐色で、殻内は青白色と紫色で真珠光沢がある(木村, 1994)。軟体部は黄色いなどの特徴がある。本亜種は、主に、港湾や内湾、河口域、汽水湖などの低塩分の岩礁や岸壁、海中構造物に固着する。また、場所によっては、水底の砂泥に埋もれて生息している。これまで、瀬戸内海を初め、高知県浦戸湾から東京湾までの太平洋沿岸と福岡県洞海湾から兵庫県円山川までの日本海沿岸で、生息が報告されている(Habe, 1981; 三本・他, 1984; 戸田・他, 1987; 堀, 1992; 木村, 1994; 増田, 1997)。

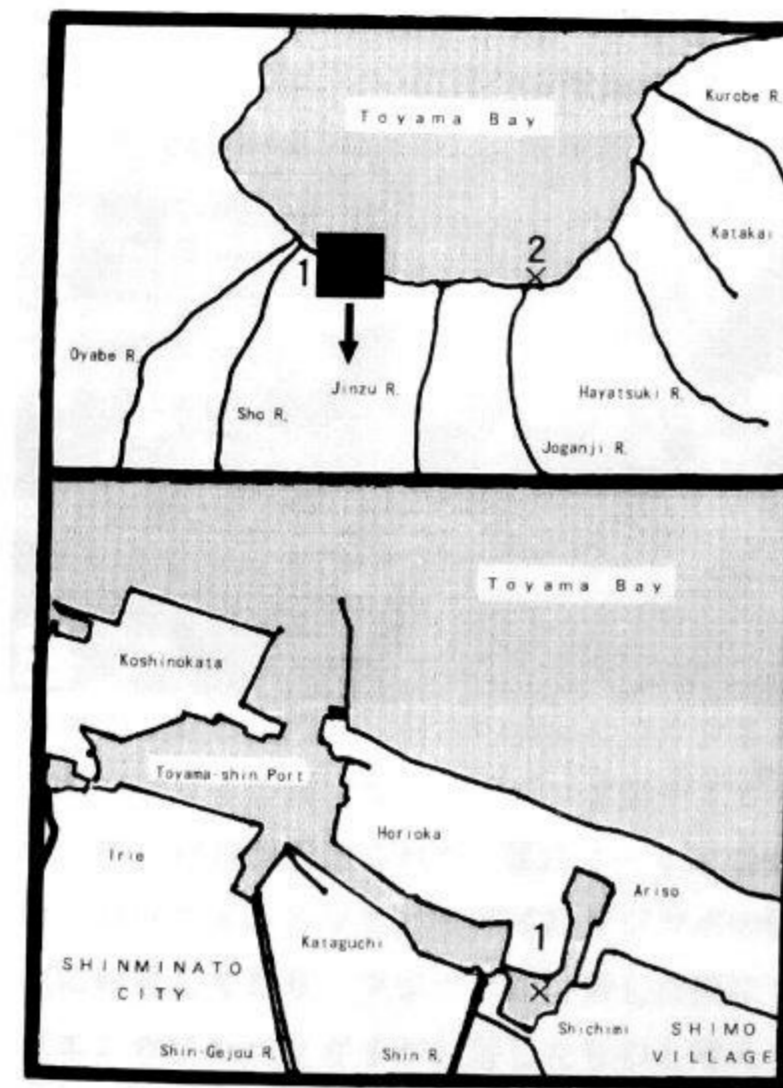


図1 コウロエンカワヒバリガイ採集場所
×1: 富山県新湊市七美第二水面貯木場
×2: 富山県富山市水橋漁港

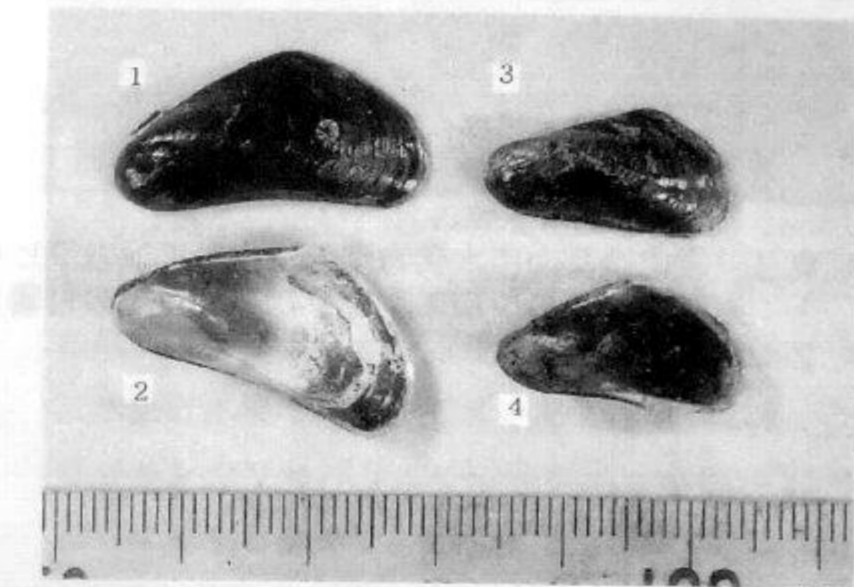


写真1 コウロエンカワヒバリガイ
1, 2: 富山県新湊市七美第二水面貯木場産
3, 4: 富山県富山市水橋漁港産

引用文献

正宗厳敬, 1963. ほくりくむようらん. 北陸の植物, 12, 69.
環境庁自然保護局野生生物課, 1997. 植物版レッドリストの作成について, 80pp. 環境庁.
長井幸雄, 1996. 田中忠次氏採集の植物標本. 富山の生物, (33), 37-44.
大田 弘・小路登一・長井真隆, 1983. 富山県植物誌, 430pp. 広文堂. 富山.
太田道人, 1983. 富山県のウラジロガシ林分布(予報). 科学文化センター研究報告, (5), 9-13.
——, 1990. 富山県新記録の植物IV. 富山県科学文化センター研究報告, (13), 145-146.
——, 1994. 呉羽丘陵の植物. 「富山市呉羽丘陵自然環境調査報告」(5-67. 富山県科学文化センター.
長田武正, 1990. 日本イネ科植物図譜, 759pp. 平凡社. 東京.

しているか定かではない。太田(1994)は、呉羽丘陵にかつて生育したキキョウを見いだすことができなかつたとしている。富山県下のキキョウの生育地が急速に失われつつあることが危惧される。県下のキキョウの産地について再調査が望まれる。

アズマレイジンソウ

Aconitum pterocaule Koidz.

太田(1990)は井口丸山の標高400m地点より、富山県下で初めてアズマレイジンソウを採集している。筆者も1998年8月24日に八尾町内名より日尾御前へ向かう途中の標高550mの溪流沿いのケヤキ林下でアズマレイジンソウが生育しているのを確認した。また、1998年9月20日に、太田(1990)が採集した丸山に近い井口村扇山の標高450mのケヤキ林下でも生育しているのを確認した。いずれの生育地も山地帯に位置し、夏緑樹林下のやや湿った場所である。両産地の証拠標本は 富山県科学文化センター標本庫に所蔵(TOYA-標本番号 Sp60426, 60425) されている。